

生駒山麓公園再整備による
地域活性化のための
基盤整備検討懇話会
(第4回)

令和8年(2026)1月13日(火)

01 第3回懇話会の振り返り

おもな意見・指摘事項と対応状況

■現状分析に関するもの

指摘事項	対応状況
✓社会福祉事業者との連携について、ヒアリング等でより深めていくべき	追加ヒアリングを実施（3者）
✓事業者ヒアリングでは地域密着型の事業者も対象候補にするべき	各事業者とは引き続き情報交換を図る。 また庁内部局との情報交換を通じて、市内事業者の情報を収集中
✓公園のポテンシャルも踏まえた現状分析が必要	自然環境、植生、景観等についてはこれまでも示しており、資料として改めて提示（参考資料編p105-107）

■今後の検討方針案に関するもの

指摘事項	対応状況
✓「現状と課題」と「今後の再整備案」をつなぐ分析がかけっており、コンセプト案に唐突感がある	アンケート分析を踏まえ、想定される、または伸ばしていきたい利用者像（ペルソナ）を整理
✓コンセプト、キャッチフレーズでは、生駒らしさや生駒山ブランドの特徴などをより明確に示すべき	生駒山ブランドについて資料追加（市広報等より） コンセプトは優先順位などを考慮しつつ見直し

02 追加実施したアンケート等

市民、利用者、事業者等の意向把握

2-1 市内アンケート、市外アンケート

- ✓ 今後のハードにおけるニーズとしては「新規レストランやカフェ」、「花や緑など自然に親しめる施設や場所」、「マルシェや野菜の直売所等」への意向が高い。
- ✓ 飲食関係については自由回答では立地を生かした自然や景色を楽しめるような施設や、メニューの充実化などの意見が挙げられている。
- ✓ 今後のソフトにおけるニーズとしては「自然を活かしたイベントやプログラム」、「地域と連携したマルシェやフリマイベント」、「アウトドアアクティビティ」への意向が高い。

利用者ニーズとしての中心は

- 自然体験
- 遊び場・アウトドアアクティビティ
- 飲食

の充実である

2-2 市内小中学校アンケート

- ✓ ハードについては、「屋内で遊べる施設」へのニーズが多い。
- ✓ ソフトについては、「学習プログラム」へのニーズが多い。
- ✓ 市内・市外ニーズと同様に「自然を活かしたイベントやアウトドアアクティビティ」へのニーズも高い。

	1位	2位	3位
ハードのニーズ	屋内で遊べる施設 (47%)	障がいの有無に関わらず遊べる施設 (37%)	
		ふれあいセンターの宿泊機能の充実 (37%)	
ソフトのニーズ	学習プログラム (74%)	自然を活かしたイベントやプログラム (47%)	アウトドアアクティビティ (21%)

その他主な個別意見

- 学校の近くで安心して野外活動ができる施設として、とても助かっています。子ども達にとって、素敵な思い出に残る野外活動になるよう、これからも共に構築していきたいです。
- 中学校の校外学習の施設としては目標の達成が難しい

※詳細は参考資料P80-87参照

2-3 事業者等ヒアリング

	業種
現管理者	指定管理者
	社会福祉法人（レストラン事業者等）（4社）（新規）
事業者	温浴施設運営（1社）
	アウトドアグッズ企画・販売、イベント運営（1社）
	観光関連（1社）
	公園整備・運営（2社）（新規）

※詳細は参考資料P88-96参照

2-3 事業者等ヒアリング結果①

福祉事業者(アート作品展示)(新規)

- ✓ 山麓公園は学校関係の利用もあり、様々な人の目に触れるところ。そのような場所でアート作品を展示することで、**作品をきっかけに作家である障害者自身や福祉、多様性に興味をもってもらいやすいような環境になっているのは良い**と思う。
- ✓ 障害者は誰かを支えたり応援したりする機会を奪われがちなところがある。そんな彼らが創作活動をしている姿をみせることで他人を応援したり、幸せにするような機会を得ることができる。継続して、そんな機会を与えていくことで、障害者にとっても健常者にとっても良い経験になるのではないか。
- ✓ **他の事業所と連携をしてライブペイントや公開製作、作家と来園者である健常者と協力して作品を作り上げるようなイベントがあれば望ましく、そういったイベントの開催や個人の障害者作家との橋渡しなどは協力できることはある。**

2-3 事業者等ヒアリング結果②

福祉事業者(花の彩り事業)(新規)

- ✓ 開始当初は軽度の利用者のみが参加していたが、現在は重度の利用者も参加している。**軽度～重度の利用者まで幅広く参加できる活動は少ないので、その点では貴重な活動**となっている。
- ✓ 周辺環境が良く、四季折々の自然を感じられる公園での作業は、利用者の好きな作業のひとつ。自閉症の利用者にとっても安らげる環境として認識している。
- ✓ 問題点としては、山麓公園の土壌環境が悪い。他の施設と比較すると、すぐに枯れてしまう。

福祉事業者(草刈り事業)(新規)

- ✓ 山麓公園内の作業は平地が多く、大きい機械も侵入可能なため作業はしやすいが、多目的広場の面積が広いため作業日数はかかる。
- ✓ 利点としてはトイレが利用できるというのが挙げられる。
- ✓ 園内は木陰やベンチが多いため、わざわざ部屋を借りて室内で休憩する必要はないと感じている。
- ✓ 多目的広場周辺以外にも範囲を拡大して草刈りを担うことも可能。
- ✓ **福祉事業所の職員は福祉のプロとして利用者の特性ごとに、仕事を後押しすること可能。ただ、仕事を作り出すことは難しい。そのため、行政側が仕事を提供してくれるのはありがたい。**

2-3 事業者等ヒアリング結果③

公園整備・運営事業者①(新規)

- ✓ 公募前からの市との事前の積極的な意見交換が重要である。
- ✓ 自由度の高い事業スキームにすることで、利活用の活性化、利用者増が図れ、まちにも貢献できる公園となることが可能である。
- ✓ 公募時には現状整理と市が考えていることを示してもらいたい。

公園整備・運営事業者②(新規)

- ✓ 社会全体として人口減少が進む中で、公園施設を多少改修するくらいでは、利益をあげ、公園全体を運営することは難しい。むしろ**今ある公園の要素のうち、必要ないものは減らしていく決断も必要**だろう。
- ✓ そうした中で、見晴らしの良い山上にあるという「ほかにはない」魅力を最大限に活かして、「**ここでなければできない**」体験を目玉としていくことが**必要**だろう。生駒山上遊園地との分担なども含めて、取り合いになることは避けなければならない。
- ✓ **指定管理者にとって金銭的なインセンティブがある制度設計**、利用者を増やせば収入も増える仕組みが**欠かせない**だろう。

2-4 市内、市外、利用者、事業者等の意向把握のまとめ

	ニーズの概要
市内アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ✓遊び場等の自然を楽しめる施設やプログラムへの意向が高い ✓レストランやマルシェといった飲食物販施設への意向も高い
市外アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ✓利用経験がある場合には、屋外の遊び場への意向が高い ✓自然を楽しめる施設やプログラム、飲食物販施設への意向も市民ニーズと同様に高い
利用者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ✓屋内や、森や水辺を活かした遊び場といった遊び場系施設への意向が高い ✓自然を楽しめるプログラムへの意向が市民ニーズと同様に高い
小中学校アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ✓屋内で遊べる施設や、学習プログラムの充実への意向が高い ✓自然を楽しめるプログラムへの意向が市民、利用者ニーズと同様に高い
事業者ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ✓近年のニーズとしては水遊び場やロッジの人気の高い(現・指定管理者) ✓障がい者が働く場所として、広々とした都市公園は良い環境である(福祉事業者) ✓自由度の高い事業スキームにすることで、利活用の活性化、利用者増が図れ、まちにも貢献できる公園となるのが可能である(公園整備運営事業者) ✓今ある公園の要素のうち、必要ないものは減らしていく決断も必要(公園整備運営事業者) ✓「ほかにはない」魅力を最大限に活かし、「ここでなければできない」体験を目玉としていくことが必要 ✓指定管理者にとって金銭的なインセンティブがある制度設計が欠かせない

※詳細は参考資料参照

03 問題点と課題の整理

3-1 現状分析とニーズ調査を踏まえた「伸ばすべきターゲット層」の整理

	現状の利用構造	利用構造の変化（狙い）
日常利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数的には非常に少ない ・ 高齢者の入浴やテニスコート利用に固定化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設目的型の利用となっており、園内全体の利用価値を高める余地がある <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>滞在時間の延長</u>
非日常利用 (年1回、数年に1回程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどが、この形態の利用 ・ 子育て世代、学校団体に偏在 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「屋内・外の遊び場、自然を体験できる場」としてのニーズがある <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>ソフト、ハード両面のコンテンツの充実による利用頻度向上</u> ➢ 「いつでも来られる遊び場」として利用の選択肢を増やす ・ 季節ごとにコンテンツを充実させることで特別な一日を感じてもらえる <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>季節に応じた飽きさせないコンテンツ作り</u>
通過利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハイカーやランナーには、通過点として利用されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のアクティブ利用層をより積極的にターゲットと捉え直す <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>通過場所から滞在・利用拠点へ</u>

●目指すターゲット層

基盤ターゲット

- ・ 高齢者の日常利用（浴場・散策）
- ・ 市民の健康維持、交流利用
- ・ 市内外の学校、企業等の「学び×自然」団体



伸ばすべきターゲット

- ・ 子育て世代の滞在利用
- ・ ハイカー、ランナー等のアクティブ利用



「伸ばすべきターゲット層」を意識した再整備を実施！

3-2 再整備に向けて加えたい新たな要素

生駒山ブランド

- 生駒山麓公園だけでの発展ではなく、生駒山全体の広域的な魅力創造
(不足を補いあうような施設導入、連携の構築)
- 30年を経過した生駒山麓公園の新たな価値
(生駒山という地理的特性を踏まえた公園づくり)

山麓公園が寄与できること（参考）

- ① **観光資源の魅力向上**
 - エリア全体のウェルカムベース（案内所、アンテナショップ、宿泊滞在拠点等の機能）
 - グルメ・お土産品・体験型レジャーコンテンツ
 - アクティビティ
- ② **観光動線の整備（シャトルバス、周遊ルート）**
- ③ **地域連携の強化（地元小中学校の環境学習、登山学習等）**

3-2 生駒山エリアが持つ特徴・資源

01 自然

- ・ 生駒山地の主峰として標高642mを有し、都市近郊に残された貴重な自然環境の一つ（大阪市街地よりも5°C程度気温が低い）

02 歴史

- ・ 古くから霊山として信仰され、空海や修験者の修行の場として発展
- ・ 江戸時代には日本三大聖天のひとつである宝山寺が開かれ、現世利益を求める信仰と結びついた

03 交通

- ・ 奈良と大阪を結ぶ交通の要衝として、暗峠などの街道が発達
- ・ 現在では幹線道路や鉄道が発展し、生駒山を挟んだ大阪・奈良間のアクセスを支えている

04 今後の再整備と管理運営の方針

4-1 再整備に向けた事業コンセプト(案)

自然と過ごし、「遊ぶ・学ぶ・泊まる」を
体験できる生駒山の拠点

—都市部から気軽に自然・歴史・文化を体験できる公園—

- ✓ 生駒山の玄関口として、情報が集まる仕組みづくり
- ✓ 生駒市民が公園に愛着を持ち、交流できるような制度設計
- ✓ 周辺の都市部からのアクセスの良さを活かした、身近な自然体験の場としての施設整備
- ✓ アクティブ層による通過利用から活動拠点化

今回の再整備は老朽化対策ではなく、生駒山麓公園の「役割」を再定義する取組み

4-2 再整備に向けた基本方針(案) ※あくまでイメージ案です

01 生駒山エリアのウェルカムベース

- ✓ 生駒山全体の情報、案内拠点（季節ごとの魅力ポイントの紹介、混雑度の情報）
- ✓ 自然、森林再生、歴史文化等の体験展示
（ビジターセンター、鳴石を鳴らしてみよう、着火剤づくりなど）
- ✓ ランナー・ハイカーの拠点となるランニングステーション

02 体験・活動の森

- ✓ 子供も大人も「遊んで学べる」ような年齢別・難易度別のプログラムの導入
（霊山「生駒山」、「酷道」と呼ばれる暗峠など）
- ✓ 天候等に左右されず、体験・活動が継続できる環境整備（屋根付き芝生広場、屋内遊戯スペースなど）
- ✓ 園内散策路や親水スペースの整備（万葉の道のランニングトラック化、せせらぎ広場の整備など）

03 滞在×回遊拠点（宝山寺、生駒山上遊園地）

- ✓ ロッジ・宿泊機能の質的向上（茶筌が彩る竹の和室、大人数対応可のキッズルームなど）
- ✓ 交流スペースの整備（マンガミュージアム、昔遊びの部屋「憩いの部屋」など）
- ✓ 生駒エリア内の回遊ルートの拠点化（生駒-信貴山ケーブルはしごコースなど）

3-1 再整備コンセプトイメージ(案)

生駒山麓公園で過ごす「1日の利用ストーリー」

【昼】 飲食・休憩・交流

【午前】 自然体験、学習、
生駒山ランニング・ハイキング

【午後】 遊び・運動・水辺

【翌朝】 朝風呂、
散策

【夜】 宿泊、ナイトプログラム

4-4 導入機能及び配置イメージ案 ※あくまでイメージ案です

Aゾーン 健康・宿泊・交流エリア

- 宿泊棟リノベーション (家族・団体兼用)
- 滞在施設の整備 (3階会議室)
- 京都国際マンガミュージアムHP
- コミュニティスペースの充実 (1階和室)
- 信州千曲観光局HP
- 宿泊機能の向上
- 生駒山麓公園
- 飲食+売店
- 東京公園協会HP
- 屋内遊び場・フィットネス・ランステの充実
- 屋内遊び場 (3階会議室)
- 山形市南部児童遊戯施設HP
- ランニングステーション
- RUNNING BASE 大阪城

Dゾーン 水辺エリア

- 園路の再整備
- 岐阜県立森林文化アカデミーHP
- 水遊び場
- 生駒山麓公園
- 水上アクティビティ
- 淀川河川公園HP

Fゾーン 事業者自由提案エリア (現: テニスコート)

- レストラン
- ケーブルカー建物
- コミュニティルーム

Eゾーン 滞在遊びエリア

- 広場の芝生化
- 庄内緑地HP
- 大規模木製遊具エリアの再整備
- 『すべての子どもに遊びを』より
- ケーブルカー改修
- 生駒山麓公園
- 周辺の花壇化
- 国営ひたち海浜公園HP

Aゾーン 健康・宿泊・交流エリア

Bゾーン 学び・活動エリア

- ロッジの増設
- 木津川市HP
- ビジターセンター
- 高尾ビジターセンター

Cゾーン 新コンテンツエリア

- 園路の再整備
- 岐阜県立森林文化アカデミーHP
- アスレチックエリアの新たな活用
- 写真AC
- ビュースポットの整備
- 生駒山麓公園

※現時点における基本構想のイメージを示したものであり、民間提案の範囲や事業内容は今後さらにサウンディング等を通じて検討する